

盆栽の美を刻る

皆さんは、正月のテレビ朝日系列の番組『芸能人格付けチェック』で、あんこやあめ細工でつくった盆栽と、数百年を経た1億円盆栽の違いを見分けたことはあるだろうか。私はこの番組に1億円の盆栽を出品しており、両品の圧倒的な差に「まさか間違えないだろう」と思っていて見ているが、正解者の数の少なさに毎回驚かされる。

かの北大路魯山人は「芸術というのは心術だといった方が解かり易い」と言った。芸術は心でとらえる感じるもの。1億円の盆栽を見抜けなかった芸能人の方々は、パッと見たありのままの感覚に背き、頭で考えてしまう人が多かったように思う。

あらゆる物事がネットにつながる現象は、爆発的スピードで生活に浸透していく。現代に生きる人は氾濫する情報の真偽を疑っていくなかで、感じ取る心を失っているのではないだろうか。

そんな現代だからこそ盆栽と相対してほしい。一糸まとわず、雨風にさらされ、幾星霜を生き抜いてきた命の姿がそこにある。では、何が盆栽と園芸品を分けるのだろうか。どちらも同じ鉢に植えられた植

盆栽作家

小林國雄
こばやし くにお



問題：片方は5000万、片方は900万の真柏盆栽。高い方はどちらか？
(正解は文末に)



時の調べ
Essay

物。その両者を分けるのが作風の有無だ。

先日とある有名な植物園の展示を見学したのだが、鉢は割れ、雑草が茂り、病気で枝が枯れているのを見て怒りが込み上げてきた。植物は放置されると野生に戻る。手付かずの姿は到底「盆栽」と呼べる代物ではない。生み出された作品には愛情を注いでやるべきなのだ。

盆栽は自然を鉢のなかに表現する自然芸術だ。その鉢のなかで何世代もの人によって育まれていく。

そんな日本の伝統文化に急速なグローバル化の波が押し寄せている。海外の愛好家が相次いで盆栽を購入し、2017年度の日本の庭木・盆栽輸出額は126億円に上る。もはや「盆栽は年配者や金持ちの趣味」と思っているのは日本人だけなのである。世界で評価される「BONSAI」は、なぜこま

で熱狂的な人気を博しているのだろうか。

私の運営する春花園BONSAI美術館の年間入場者約3万5000人のうち、8割は外国人である。また盆栽を学びに来た弟子は100名を優に超えるが、そのうちの8割もやはり外国人である。彼らに尋ねれば「生きた植物がアートになっていることそのものがクールだ」と言う。なかには盆栽鉢や床の間飾りの作法にまで精通している者すらいる。日本人が盆栽という日本文化の素晴らしさに気付いていないことは残念である。

しかし、私はこの状況を一変させ得る一大イベントを企画している。それは2020年東京オリンピック直前の6月、明治神宮で行われる史上最高峰の盆栽・水石展だ。初詣で例年日本一の参拝者数を集める神社に3000点の作品を展示。展示期間中2週間で世界中から20万人の参観者が押し寄せるだろう。

読者の皆さんにはぜひ足を運び、日本の至宝の数々との邂逅を果たし、歴史に残る瞬間を体感していただきたい。そして夢である日本の盆栽・水石文化の世界遺産登録を実現したい。

※答え…左が5000万円、右が900万円。左の樹は真柏らしい幹の捻転に峻厳な山の息吹を感じ。実物の鑑賞は感性を磨く近道



春花園BONSAI美術館にて私が理事長を務める日本水石協会の面々



ASPAC2019アジア大会(ベトナム・ホーチミン)にて



略歴
1948年生まれ。東京都立農産高等学校園芸科卒業。
1976年園芸農家から盆栽作家へ。
日本盆栽作風展で日本一の「内閣総理大臣賞」の受賞4回、皐月盆栽日本一「皐樹展大賞」を7回受賞した。2002年「春花園BONSAI美術館」を開館。海外講演30カ国200回以上。日本水石協会理事長。
近著「小林國雄のイチから教える盆栽」(西東社)。1億円の盆栽作家、初の入門書。日本の伝統である盆栽の銘品観賞、創作、管理等を学べる文化人必携の一冊。